



2016年3月期(平成28年3月期)

# 決算説明会

2016年5月18日

株式会社ジャムコ

# 技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。したがって、決算短信、有価証券報告書など、表示桁未満を切捨てにて作成、表示している資料とは末尾数値が異なる箇所がございますのでご了承ください。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。



## Contents

### SECTION 1

## 2016年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L (前期比)
- 05 | セグメント別売上高 (前期比)
- 06 | セグメント別経常利益 (前期比)
- 07 | グループ連結P/L (計画比)
- 08 | セグメント別売上高 (計画比)
- 09 | セグメント別経常利益 (計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費
- 12 | グループ各社の状況

### SECTION 2

## 中期3ヶ年計画

- 14 | 経営環境と市場動向
- 15 | 新中期経営計画のポイント
- 16 | 各セグメント 今後の課題と対応
- 17 | グループ連結 売上高/経常利益
- 18 | 内装品セグメント 売上高/経常利益(計画)
- 19 | 機器製造セグメント 売上高/経常利益(計画)
- 20 | 整備セグメント 売上高/経常利益(計画)
- 21 | 経営指標の推移
- 22 | グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費

# 2016年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L (前期比)
- 05 | セグメント別売上高 (前期比)
- 06 | セグメント別経常利益 (前期比)
- 07 | グループ連結P/L (計画比)
- 08 | セグメント別売上高 (計画比)
- 09 | セグメント別経常利益 (計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 設備投資額／減価償却費／試験研究費
- 12 | グループ各社の状況

## SECTION

# 1



## グループ連結P/L(前期比)

【単位:百万円】

	FY15 (実績)	FY14 (実績)	増減	増減率
売上高	91,561	76,944	14,617	19.0%
営業利益	8,794	6,784	2,010	29.6%
経常利益	8,246	7,828	418	5.3%
税引前利益	8,231	8,153	78	1.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,170	4,795	375	7.8%
1株当たり当期純利益 (円)	192.72	178.75	—	—
売上為替レート (円/USドル)	120.22	109.01	—	—

## セグメント別売上高(前期比)

【単位:百万円】

	FY15 (実績)	FY14 (実績)	増減	増減率
売上高	91,561	76,944	14,617	19.0%
内装品セグメント	77,024	63,106	13,918	22.1%
機器製造セグメント	6,366	5,001	1,365	27.3%
整備セグメント	8,171	8,838	△ 667	△ 7.5%

## Point

- 内装品は787関連、スペアパーツ、シート等の販売が増加／円安による外貨建て売上高の増加
- 機器製造は防衛関連部品の販売回復、炭素繊維構造部材とエンジン部品の販売も増加
- 整備は受注端境期となった防衛関連機の定期整備作業が減少

## セグメント別経常利益(前期比)

【単位:百万円】

	FY15 (実績)	FY14 (実績)	増減	増減率
売上総利益	18,917	15,591	3,326	21.3%
販管費	10,123	8,807	1,316	14.9%
営業外損益	△ 548	1,044	△ 1,592	—
経常利益	8,246	7,828	418	5.3%
内装品セグメント	7,866	8,004	△ 138	△ 1.5%
機器製造セグメント	215	△ 425	640	—
整備セグメント	166	252	△ 86	△ 34.1%
その他	△ 2	△ 4	2	—

(注1)「その他」はオレンジジャムコ、ジャムコテクニカルセンターの事業を含んでおります。

## Point

■ 販管費

- 業容拡大に伴い人件費、販売手数料、保証工事費等の経費が増加

■ 営業外損益

- 期末にかけて急激な円高の影響を受けた事により為替差損424百万円を計上（前期は為替差益1,126百万円）

■ 経常利益

- 内装品はスペアパーツ販売の増加や円安により増益効果があったものの、シート関連のコスト増や内装品の価格引き下げに対するコスト削減の遅れ等により減益
- 機器製造は防衛関連部品の販売回復、炭素繊維構造部材とエンジン部品の売上高の増加により改善
- 整備は防衛関連機の機体整備数の減少の影響などにより減益

## グループ連結P/L(計画比)

【単位:百万円】

	FY15 (実績)	FY15 (計画)	増減	増減率
売上高	91,561	89,803	1,758	2.0%
営業利益	8,794	8,951	△ 157	△ 1.8%
経常利益	8,246	8,641	△ 395	△ 4.6%
税引前利益	8,231	8,622	△ 391	△ 4.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,170	5,340	△ 170	△ 3.2%
1株当たり当期純利益 (円)	192.72	199.06	—	—
売上為替レート (円/USドル)	120.22	120.00 (当初 115.00)	—	—

(注)計画とは、第2四半期決算で公表した下期想定為替レート120円/USドルに変更した通期見通しです。

## セグメント別売上高(計画比)

【単位:百万円】

	FY15 (実績)	FY15 (計画)	増減	増減率 (%)
売上高	91,561	89,803	1,758	2.0%
内装品セグメント	77,024	74,850	2,174	2.9%
機器製造セグメント	6,366	6,760	△ 394	△ 5.8%
整備セグメント	8,171	8,193	△ 21	△ 0.3%

(注)計画とは、第2四半期決算で公表した下期想定為替レート120円/USドルに変更した通期見通しです。

## Point

- 内装品はギャレー、スペアパーツ等の販売が好調で増加
- 機器製造は炭素繊維構造部材、エンジン部品が予定を下回り減少
- 整備は機体整備は計画を上回りましたが、部品整備の受注が低調で減少



## セグメント別経常利益(計画比)

【単位:百万円】

	FY15 (実績)	FY15 (計画)	増減	増減率 (%)
売上総利益	18,917	18,388	529	2.9%
販管費	10,123	9,437	686	7.3%
営業外損益	△ 548	△ 310	△ 238	—
経常利益	8,246	8,641	△ 395	△ 4.6%
内装品セグメント	7,866	8,174	△ 308	△ 3.8%
機器製造セグメント	215	445	△ 230	△ 51.7%
整備セグメント	166	35	131	374.3%
その他	△ 2	△ 12	10	—

(注1)計画とは、第2四半期決算で公表した下期想定為替レート120円/USドルに変更した通期見通しです。

(注2)「その他」はオレンジジャムコ、ジャムコテクニカルセンターの事業を含んでおります。

## Point

## ■ 販管費

- 試験研究費は計画を下回ったものの(△4億円)、保証工事費が増加(+12億円)

## ■ 営業外損益

- 期末にかけ急激な円高の影響を受けた事により為替差損を計上

## ■ 経常利益

- 内装品はシートの損失があったものの、スペアパーツ販売の増加等により売上総利益は増加しましたが、経常利益は保証工事費の増加等により減少
- 機器製造は売上高の減少に伴い、利益も減少
- 整備は生産性向上及び人員の適正配置を進めたことにより増益

【単位:百万円】

科目	FY15 末 2016年3月31日現在	FY14 末 2015年3月31日現在	増減
〈資産の部〉			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	3,479	3,050	429
受取手形及び売掛金	20,233	20,677	△ 444
棚卸資産	42,210	37,385	4,825
その他流動資産	6,710	7,620	△ 910
<b>流動資産合計</b>	<b>72,632</b>	<b>68,732</b>	<b>3,900</b>
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	14,496	13,693	803
無形固定資産	1,214	1,217	△ 3
投資その他の資産	3,943	4,279	△ 336
<b>固定資産合計</b>	<b>19,653</b>	<b>19,189</b>	<b>464</b>
<b>資産合計</b>	<b>92,284</b>	<b>87,922</b>	<b>4,362</b>

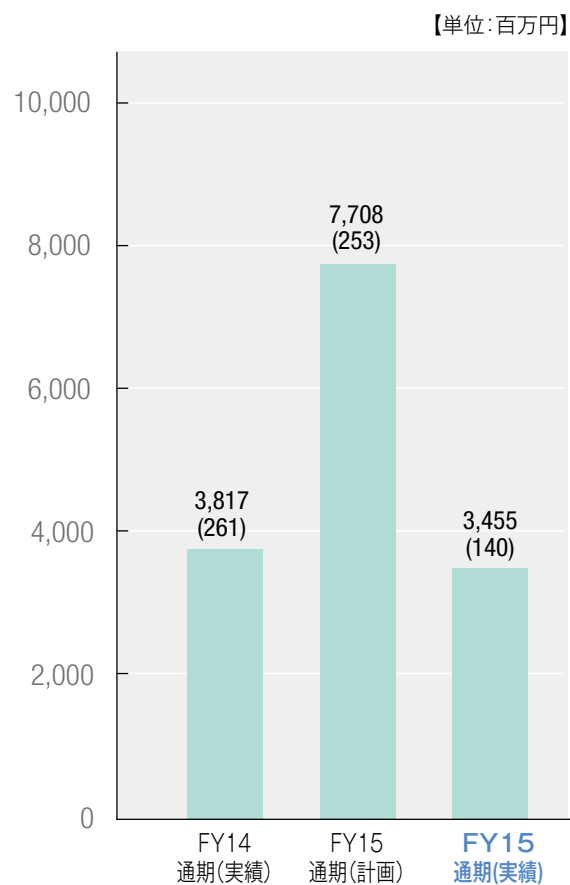
科目	FY15 末 2016年3月31日現在	FY14 末 2015年3月31日現在	増減
〈負債の部〉			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	15,216	14,103	1,113
短期借入金	22,374	24,247	△ 1,873
その他流動負債	14,153	14,604	△ 451
<b>流動負債合計</b>	<b>51,743</b>	<b>52,954</b>	<b>△ 1,211</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金	5,100	3,358	1,742
その他固定負債	7,239	7,112	127
<b>固定負債合計</b>	<b>12,339</b>	<b>10,470</b>	<b>1,869</b>
<b>負債合計</b>	<b>64,082</b>	<b>63,424</b>	<b>658</b>
〈純資産の部〉			
<b>純資産合計</b>	<b>28,202</b>	<b>24,498</b>	<b>3,704</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>92,284</b>	<b>87,922</b>	<b>4,362</b>

## Point

- 787増産対応、シート事業拡大で棚卸資産が増加(+48億円)
- 自己資本比率 27.0%→29.7% (2.7ポイント上昇)

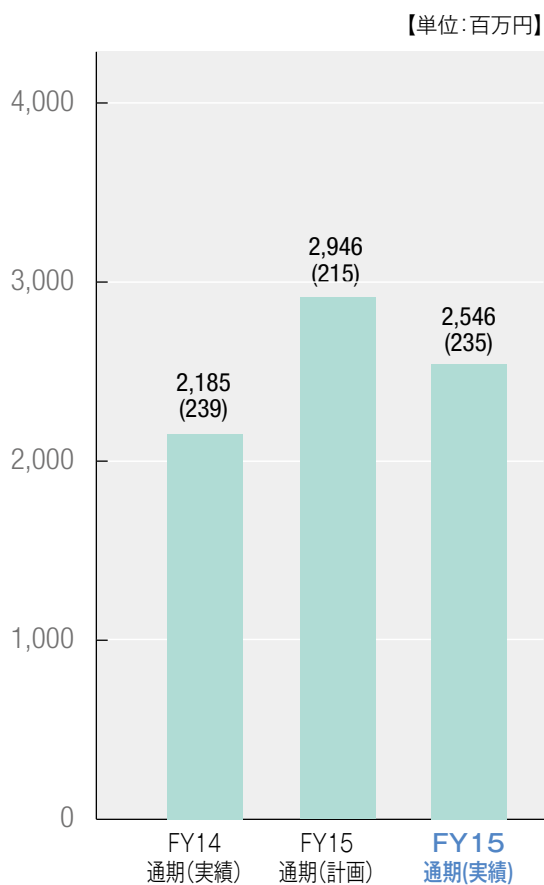
# グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費

## 設備投資額(連結)



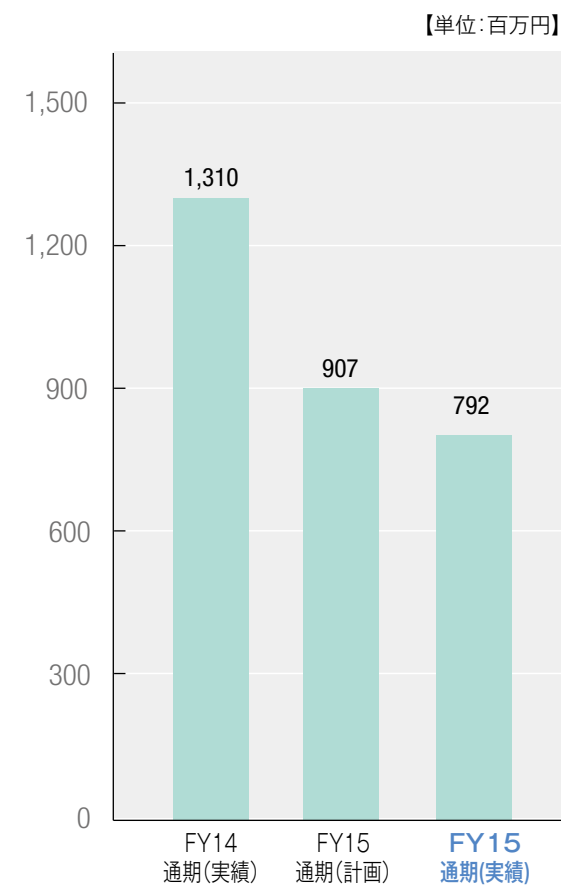
※設備投資には( )内の全リース物件を含む。

## 減価償却費(連結)



※( )内はリース資産分。

## 試験研究費(連結)



(注)計画とは、第2四半期決算で公表した下期想定為替レート120円/USドルに変更した通期見通しです。

## グループ各社の状況

【単位：百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロ デザイン エンジニア リング	ジャムコ フィリピン	中条 ジャムコ	ジャムコ シンガポール	ジャムコ エアロ マニユファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	その他	シンガポール ジャムコ サービス
売上高	78,949	4,134	3,319	24,097	1,581	687	331	5,691	1,220	763	333	133	3,410
営業利益	7,245	376	21	514 (297)	170	109	△ 149	284	131	27	10	8	248
経常利益	6,534	389	25	371 (154)	179	101	△ 145	259	155	27	10	8	248
当期純利益	4,139	239	14	287 (150)	160	86	△ 95	240	102	16	6	5	220

(注1)「その他」はオレンジジャムコ、ジャムコテクニカルセンターの合算値です。

(注2)シンガポールジャムコサービスは持分法適用関連会社です。

(注3)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

# 中期3ヶ年計画

- 14 | 経営環境と市場動向
- 15 | 新中期経営計画のポイント
- 16 | 各セグメント 今後の課題と対応
- 17 | グループ連結 売上高／経常利益
- 18 | 内装品セグメント 売上高／経常利益(計画)
- 19 | 機器製造セグメント 売上高／経常利益(計画)
- 20 | 整備セグメント 売上高／経常利益(計画)
- 21 | 経営指標の推移
- 22 | グループ連結 設備投資額／減価償却費／試験研究費

## SECTION 2



- 日本や米国では緩やかな景気回復が続いており、又、欧州地域においては一部に財政不安を抱えつつも回復基調が続くものと見込まれる。  
一方、中国や新興諸国における経済成長は鈍化して先行きが不透明。中東や東アジアにおける地政学的リスクによる世界経済への悪影響を懸念。
- 原油価格の下落と世界的な旅客需要の拡大により、航空輸送業界は総じて好調に推移。
- 航空機メーカーは小型機を中心に受注・生産は引き続き好調。
- ボーイング787やエアバスA350など運航性能に優れる中型機の生産についても、安定的に高水準を維持。
- エアライン各社は激しい競争に晒されているものの、航空需要の伸びと燃料費の下落などにより収益環境の改善が予想される。
- 為替相場は日本の経常収支の黒字化や世界的な金融資本市場の不透明感などから円高に転じた。

## 中期ビジョン

- 航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の機能を併せ持つオンリーワンの航空機総合企業を目指す

## 中期経営方針

- 連結売上高1,000億円を目指した事業戦略の推進
- 品質と技術に更に磨きをかけ、革新的製品投入により競争力を強化
- 生産コスト削減の強化
- 全社組織再編による製造部門の統合とシート事業の基盤整備
- 中期3カ年計画の為替レートは110円／USドルを想定

## 中期経営指標

- 収益性指標：連結経常利益率 7% 以上
- 効率性指標：連結ROA 7%以上
- 配当方針：連結配当性向20~30%を目安とする

# 各セグメント 今後の課題と対応

## 内装品セグメント

- ① 生産技術の革新を加速し、コスト競争力を一段と強化
- ② サプライチェーンを強化し、品質・コスト・リードタイムをより一層改善
- ③ 革新的な技術と製品により競争力を強化し、顧客との協力関係を更に確固たるものにして、世界シェアNO.1を確保
- ④ シート事業の設計、開発、調達、生産すべてにおけるコストダウンを加速

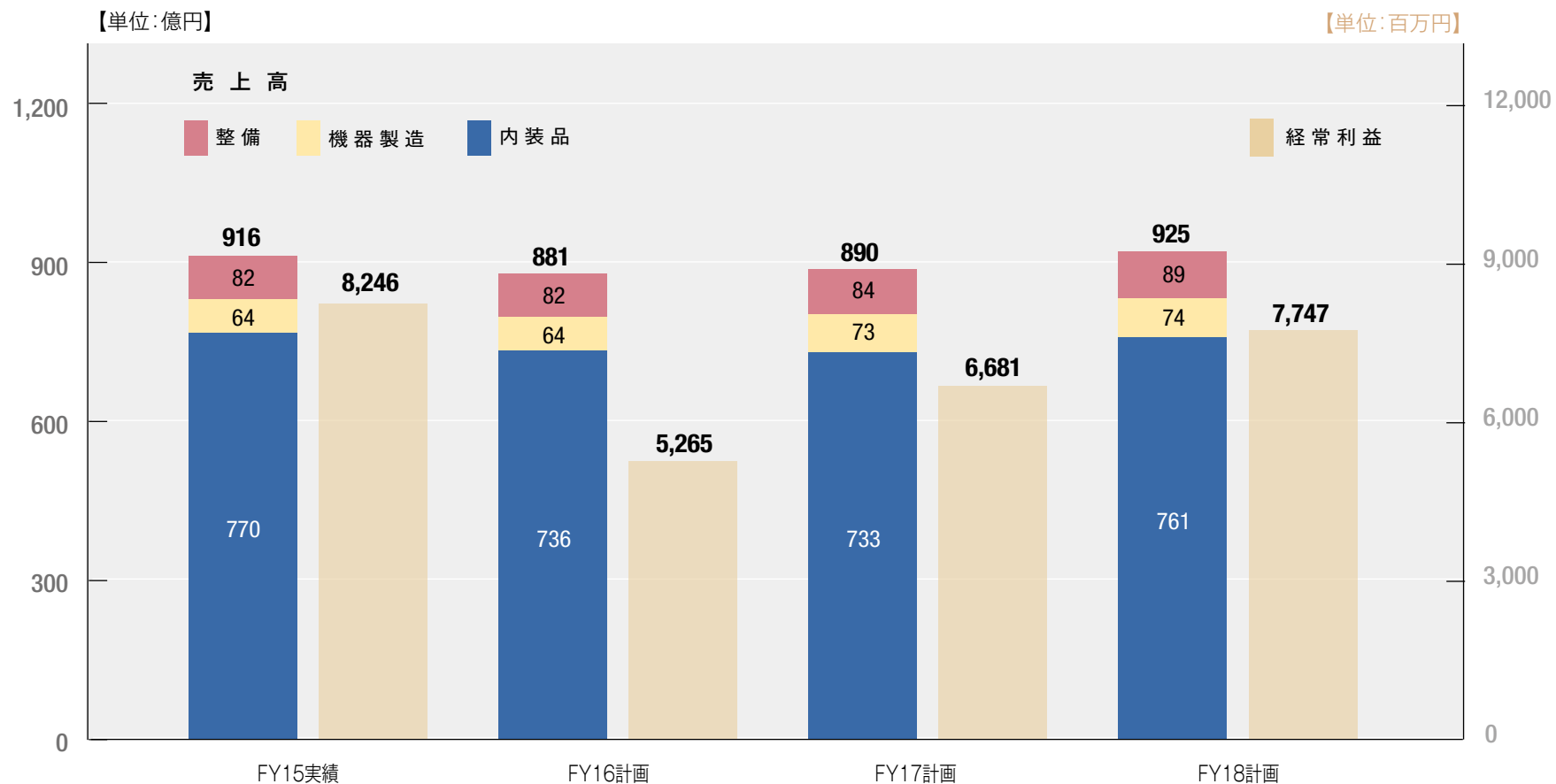
## 機器製造セグメント

- ① 関連企業を含め品質及び生産効率向上の追求による収益性の向上
- ② 国内外の新たな顧客開拓を促進し、受注を拡大
- ③ 新たな開発プロジェクトへの参画等を通じて新製品を受注
- ④ 炭素繊維複合材成型などの製造技術を内装品に応用

## 整備セグメント

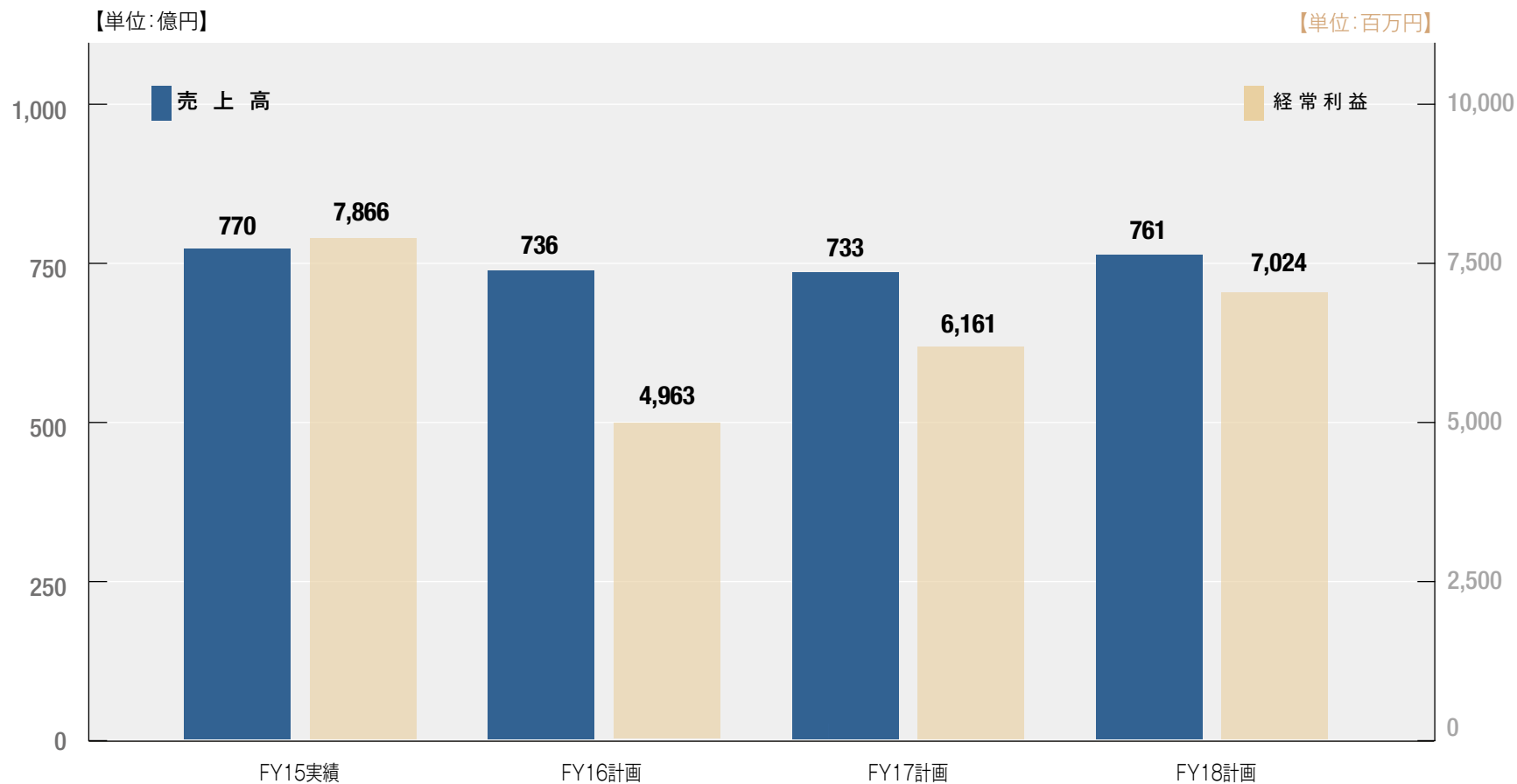
- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 海外市場への展開や製造会社との協業の推進
- ④ 沖縄MRO-Japan事業参画への準備を推進

## グループ連結 売上高/経常利益



(注) 中期計画の為替レート FY16~FY18 110円/USドル

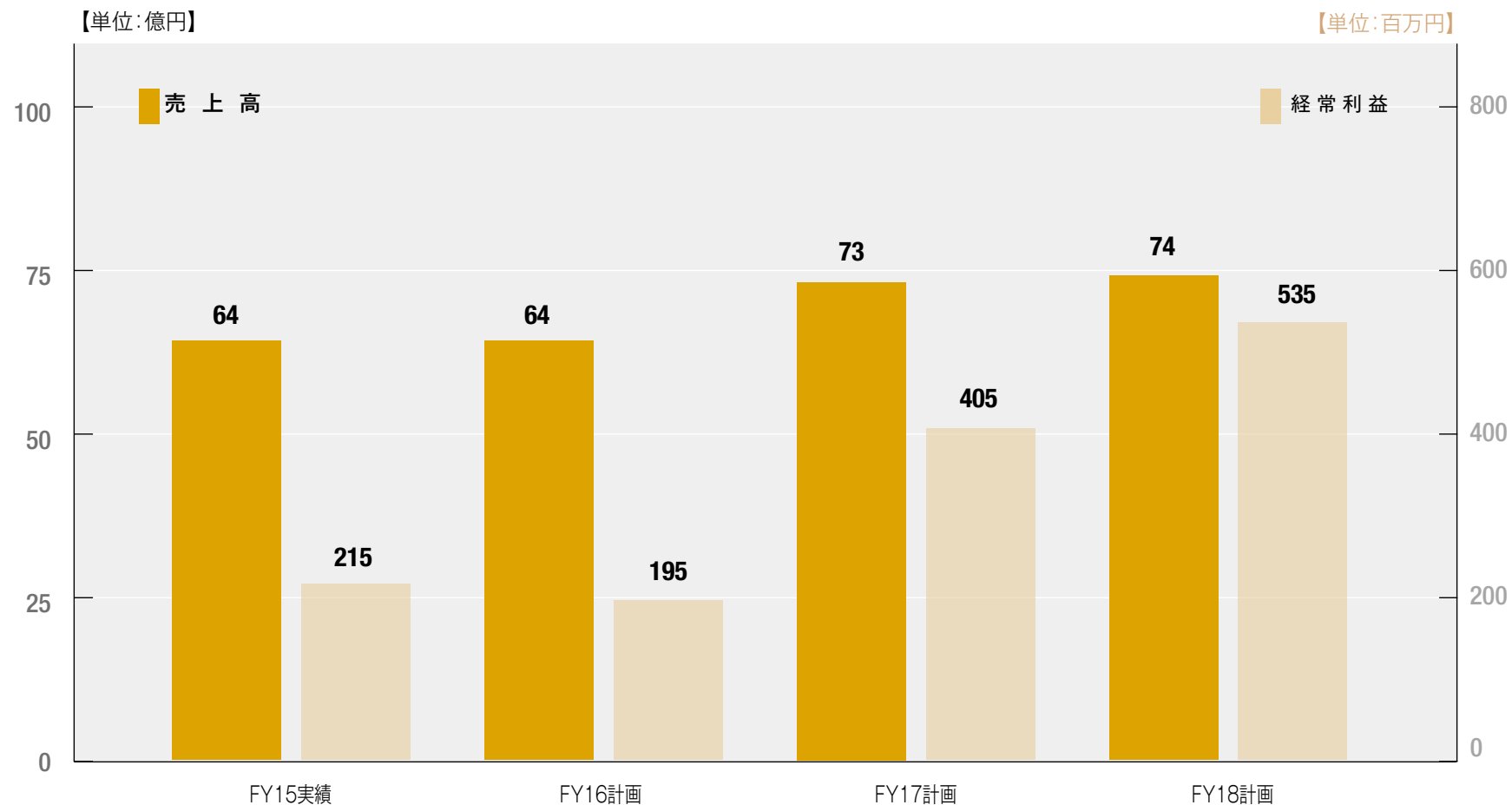
## 内装品セグメント 売上高/経常利益(計画)



(注) 中期計画の為替レート FY16~18 110円/USドル

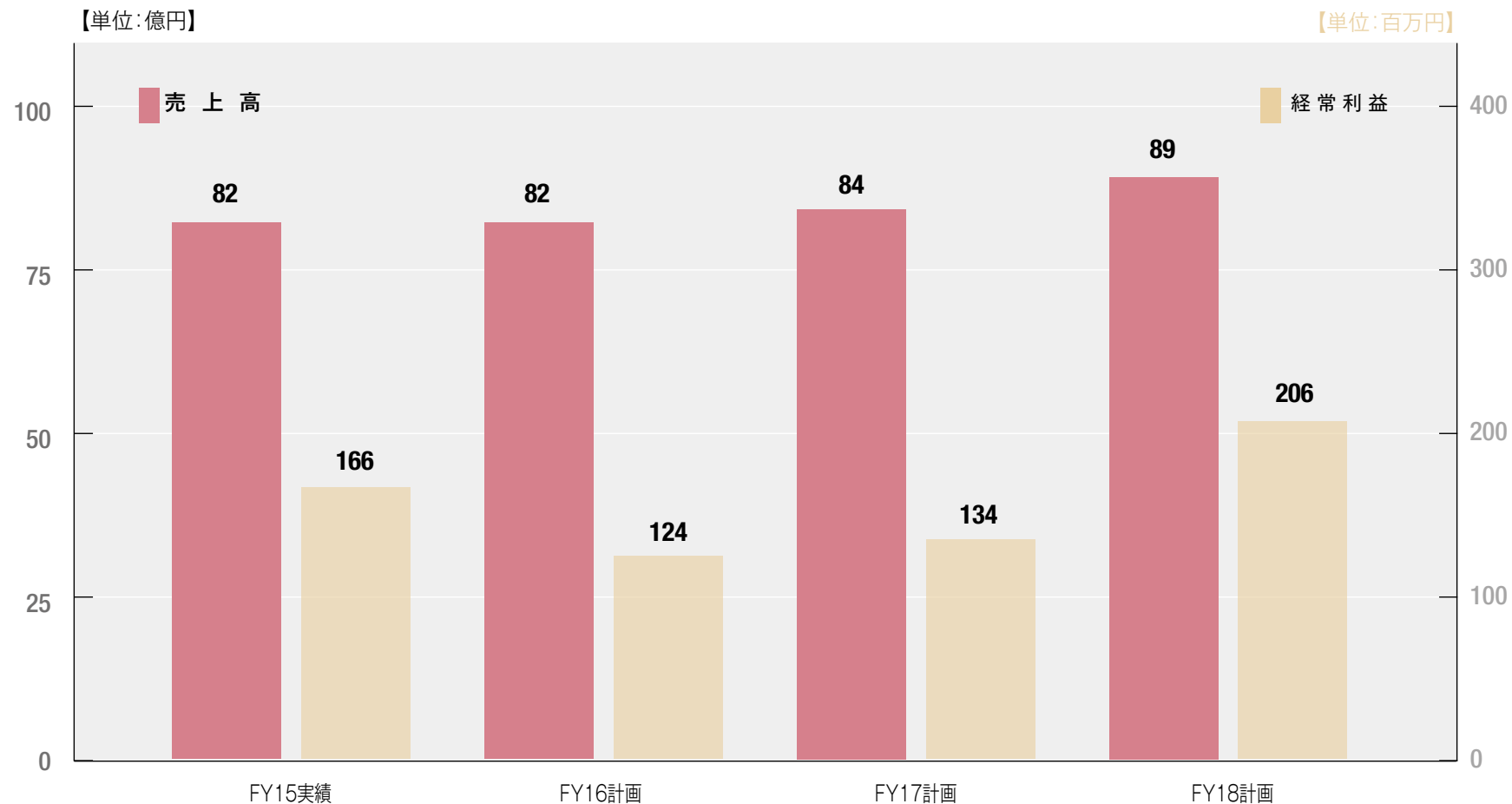


# 機器製造セグメント 売上高/経常利益(計画)



(注) 中期計画の為替レート FY16~18 110円/USドル

## 整備セグメント 売上高/経常利益(計画)



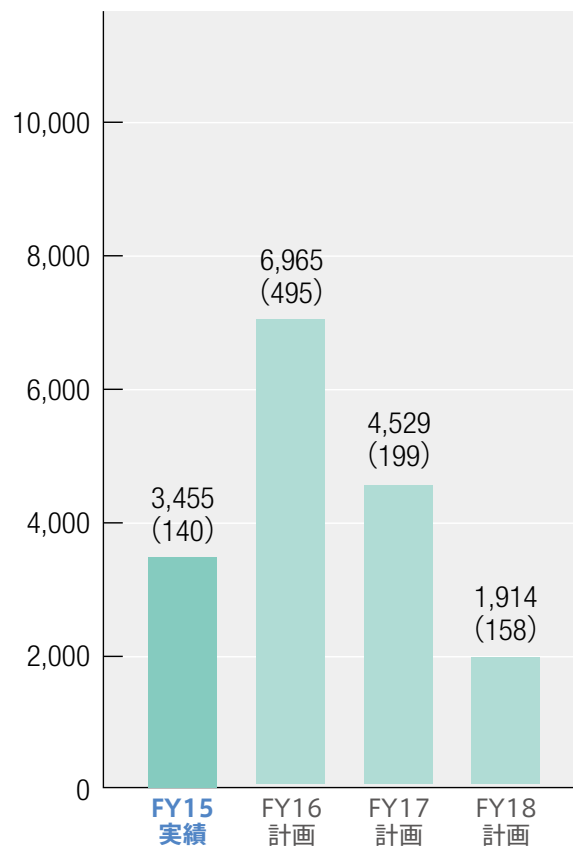
(注) 中期計画の為替レート FY16~18 110円/USドル

## 経営指標の推移

	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18
ROE (株主資本当期純利益率)	10.7%	15.0%	22.6%	20.2%	11.5%	13.6 %	13.7%
ROA (総資産経常利益率)	5.1%	6.7%	9.8%	9.2%	5.6%	6.9%	8.0%
自己資本比率	26.2%	27.0%	27.0%	29.7%	31.0%	34.7%	38.4%
1株当たり配当額	¥10	¥15	¥35	¥40	¥35	—	—
配当性向	15.7%	14.8%	19.6%	20.8%	28.3%	—	—
株価 (期末日)	¥786	¥1,925	¥3,665	¥2,816	—	—	—

設備投資額(連結)

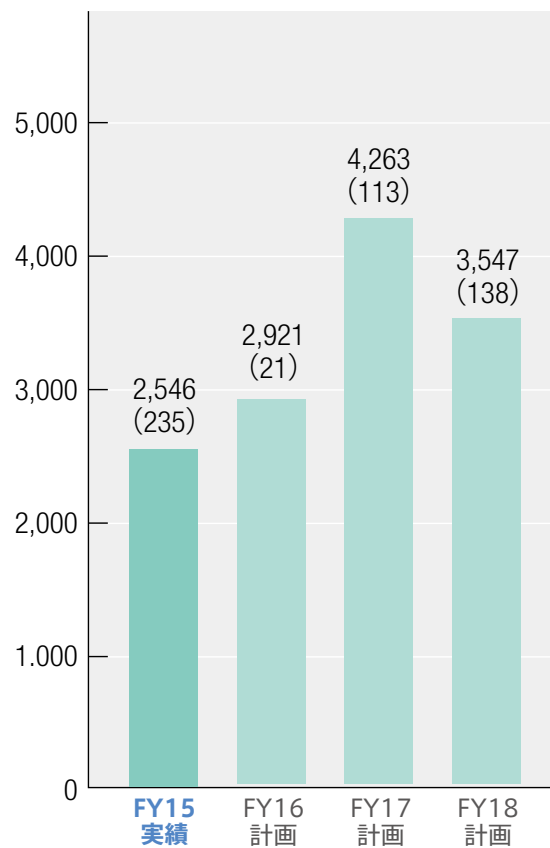
【単位:百万円】



※設備投資には( )内の全リース物件を含む。

減価償却費(連結)

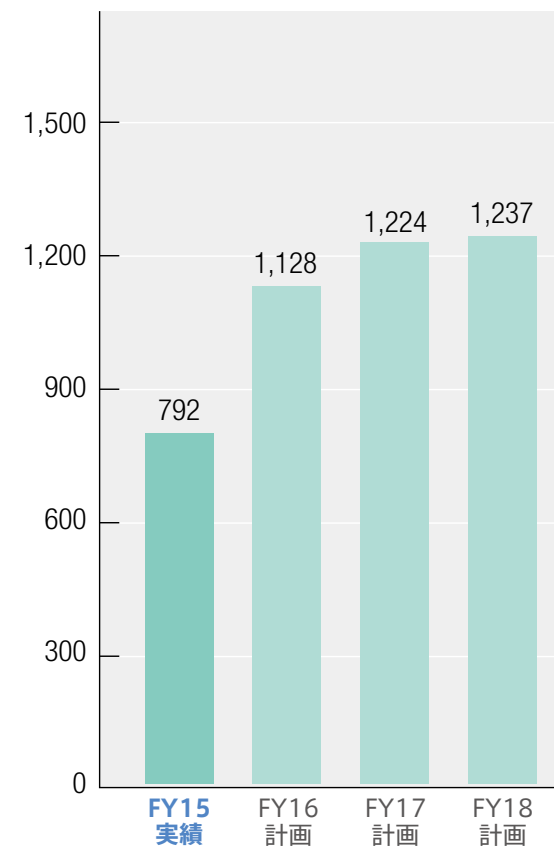
【単位:百万円】



※( )内はリース資産分。

試験研究費(連結)

【単位:百万円】

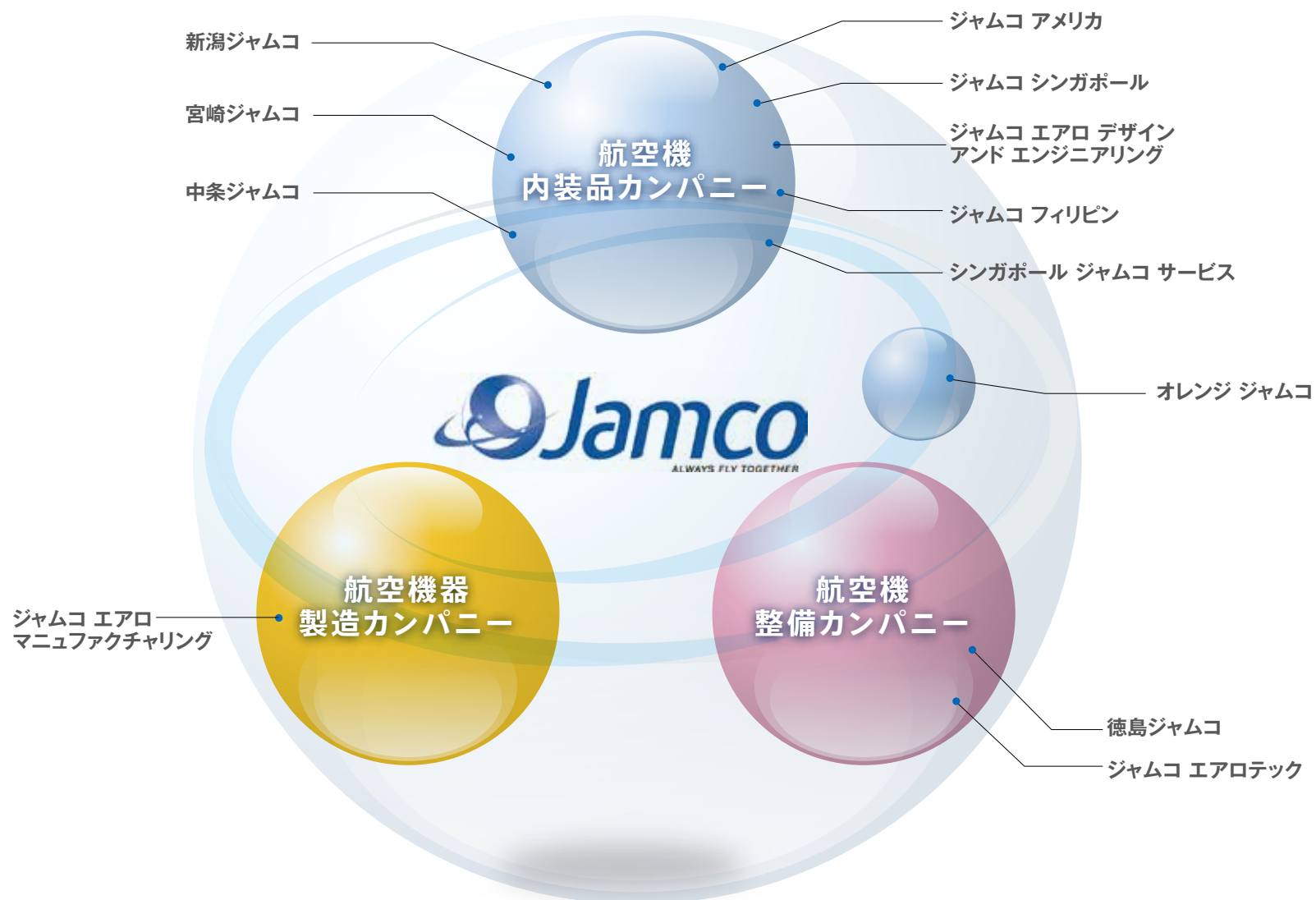


# 2016年3月期 決算説明会 添付資料

- 24 | 企業グループ概要
- 25 | 事業概要①/航空機内装品カンパニー①
- 26 | 事業概要②/航空機内装品カンパニー②
- 27 | 事業概要③/航空機器製造カンパニー
- 28 | 事業概要④/航空機整備カンパニー
- 29 | 事業概要⑤/国内関連会社
- 30 | 事業概要⑥/海外関連会社
- 31 | 航空機メーカーの受注残
- 32 | 新型旅客機の開発・生産状況
- 33 | ボーイング・エアバスの受注・納入状況
- 34 | ボーイングの受注・納入状況
- 35 | エアバスの受注・納入状況
- 36 | 世界の航空旅客予測
- 37 | ジェット機の運航機材構成予測

# SECTION 3

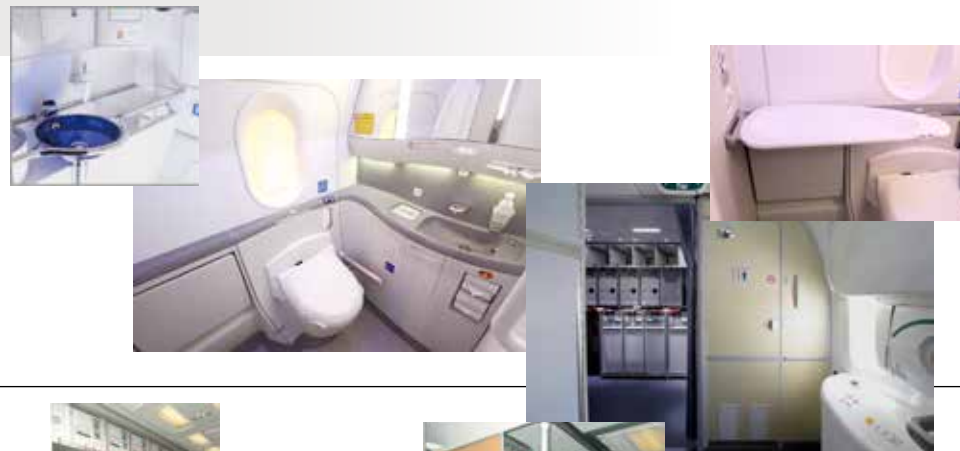




## 航空機内装品カンパニー①

### 航空機用ラバトリー(化粧室)の製造

- ボーイング747-8・767・777・777X・787向け  
ラバトリーを独占供給



### 航空機用ギャレー(厨房設備)の製造

- ボーイング747-8・777・787・767・737に搭載
- エアバスA380・A330・A340・A320に搭載
- 世界の航空会社約100社へ納入
- 787向けギャレーを独占供給
- A350向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーを供給



### 航空機用フロアパネル(客室床板)の製造

- ボーイング社より777向けに独占供給



## 航空機内装品カンパニー②

### 航空機用シート事業

- エアバス向けA350 ACS (Airbus Contracted Supplier) シート  
商品名Journey™ ビジネスクラスシート
- シンガポール航空向けファースト、ビジネスクラスシート  
ボーイング777-300ER用ファースト、ビジネスクラスシート
- 新型プレミアムシートDoveTailの顧客獲得を目指す



### 航空機改修事業

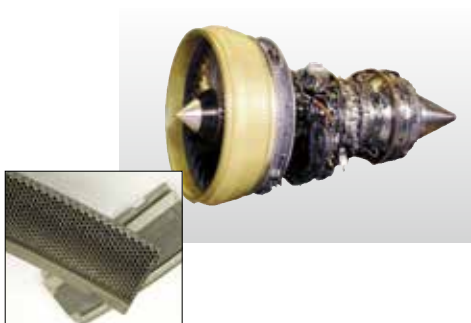
- 客室内装備品の新規搭載、配置換え、及びキャビンクルーの  
休憩室搭載等に関する、設計、プロジェクトの管理、取付用部品の  
製造と認証取得
- アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA認定を取得 (ジャムコアメリカ)  
FAAに代わって航空機客室改造の追加型式認証の発行が可能
- 欧州航空安全庁 (EASA) より設計認証 (DOA) を取得 (ジャムコエアロデザイン & エンジニアリング)



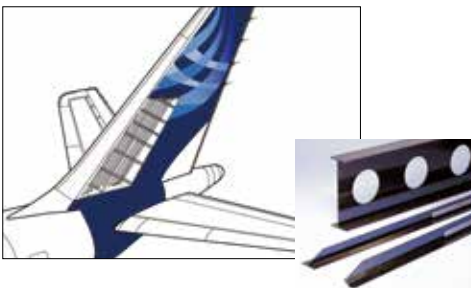
## 航空機器製造カンパニー



**航空機用熱交換器及び  
各種航空機搭載機器の製造**



**ジェットエンジン部品の製造**



**航空機用炭素繊維構造部材の製造**

- エアバスA380用2階床構造部材 (ADP)
- エアバスA350を除くエアバス機の垂直尾翼構造部材 (ADP)
- エアバスA350貨物室床下構造材



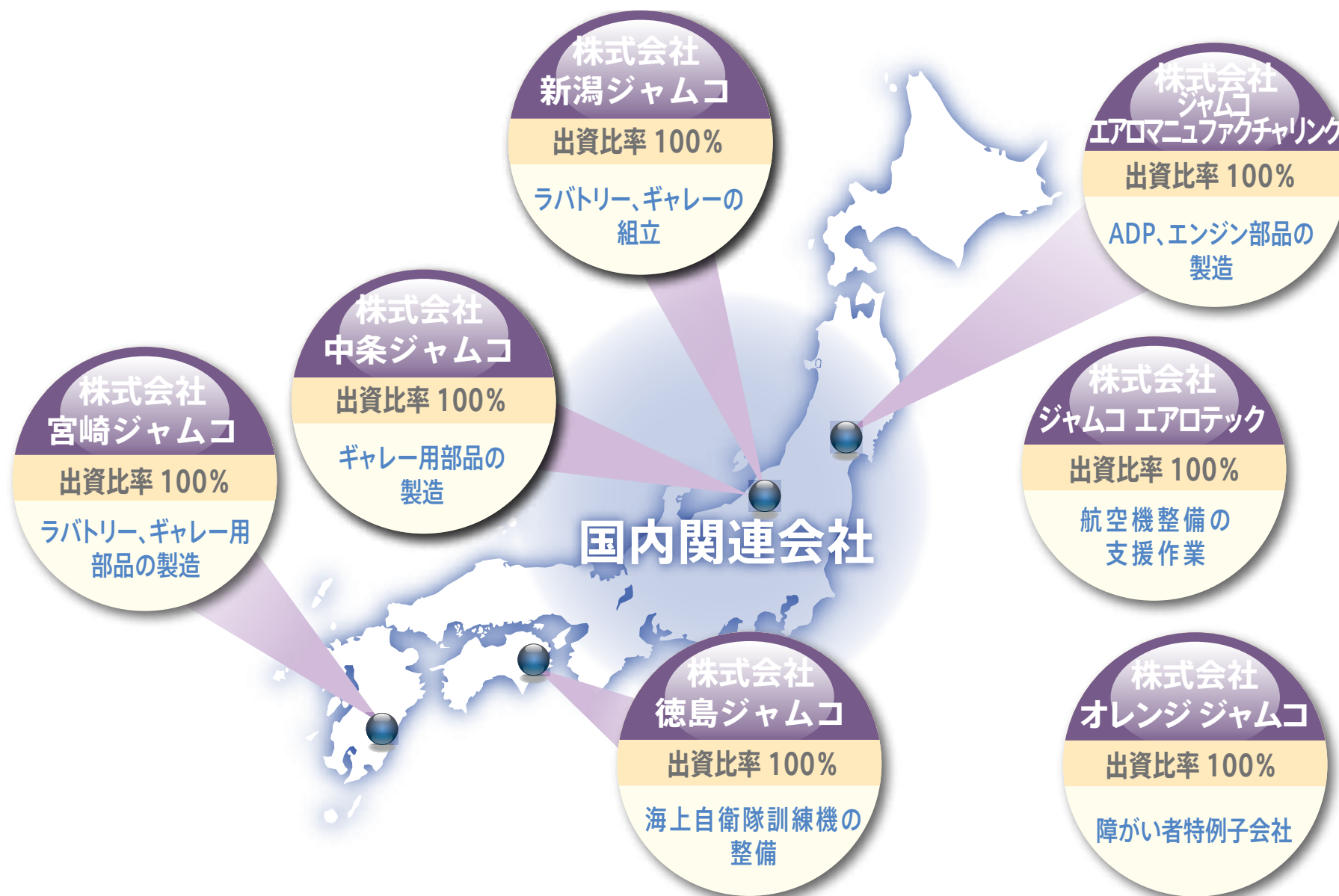
## 航空機整備カンパニー

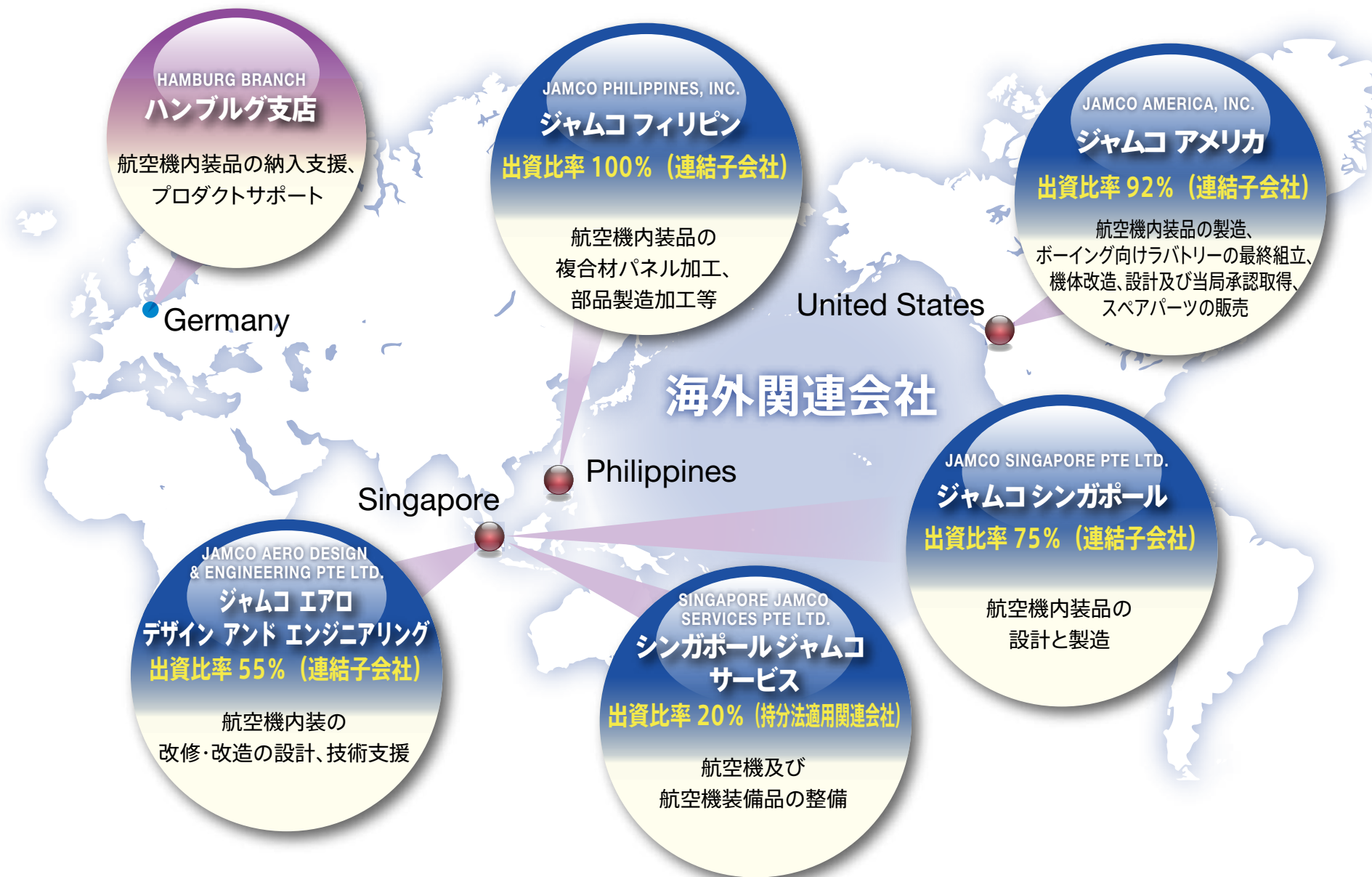


### 防衛省、海上保安庁、国土交通省航空局、 航空大学校、エアラインなどの航空機、 装備品整備事業

- 中型・小型航空機及びヘリコプターの整備・改造
- リージョナル機の整備
- プロペラ、脚、航空電子機器の整備
- 車輪、ブレーキ、救難用ホイス（吊り上げ装置）のオーバーホール
- 大型旅客機客室内装備品の整備
- エマージェンシー フロート/ エバキュエーション スライドの整備







## 航空機メーカーの受注残

## ボーイング社の受注残機数

狭胴機

4,363 機 (前年 4,299機)

広胴機

1,357 機 (前年 1,490機)

## エアバス社の受注残機数

狭胴機

5,479 機 (前年 5,129機)

広胴機

1,237 機 (前年 1,257機)

(注)2016年3月末時点

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

# 新型旅客機の開発・生産状況

## ■ 787の生産状況

- 2016年3月末日現在、393機の引き渡しを完了
- 2016年3月末日現在、受注残機数は751機

## ■ 777Xの開発状況

- 2017年生産開始、2020年に初号機引き渡し予定
- 2016年3月末日現在、受注残機数は306機

## ■ 737MAXの開発状況

- 2017年に初号機引き渡し予定
- 2016年3月末日現在、受注残機数は3,090機

## ■ A380の生産状況

- 2016年3月末日現在、184機の引き渡しを完了
- 2016年3月末日現在、受注残機数は135機

## ■ A350XWBの生産状況

- 2016年3月末日現在、19機の引き渡しを完了
- 2016年3月末日現在、受注残機数は758機

## ■ A330neoの開発状況

- 2017年10月-12月に初号機引き渡し予定
- 2016年3月末日現在、受注残機数は186機

## ■ A320neoの生産状況

- 2016年3月末日現在、5機の引き渡しを完了
- 2016年3月末日現在、受注残機数は3,342機

(注)受注データについてはボーイング社、エアバス社HPより

## ボーイング・エアバスの受注・納入状況

(2015年1月～12月累計)

## 受注状況

●エアバス社

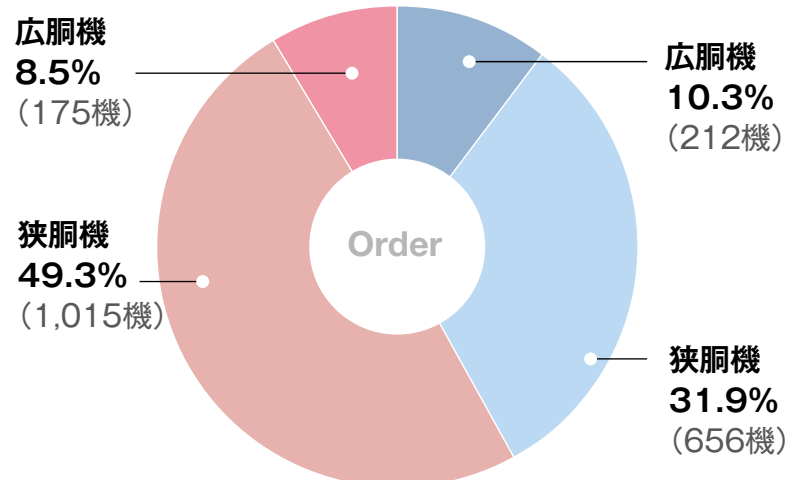
**57.8%**

(1,190機)

●ボーイング社

**42.2%**

(868機)



## 納入状況

●エアバス社

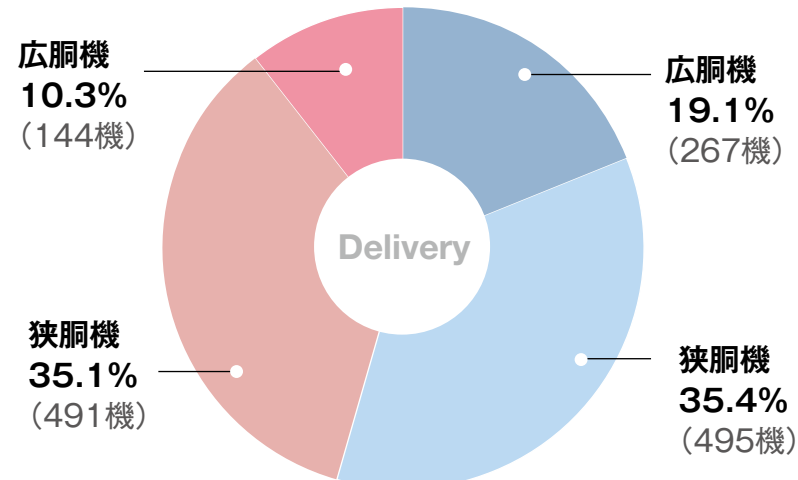
**45.5%**

(635機)

●ボーイング社

**54.5%**

(762機)



出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP



## ボーイングの受注・納入状況

(2015年1月～12月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
ボーイング合計	868	762	5,720
<b>747</b>	6	18	23
<b>777</b>	58	98	504
<b>787</b>	99	135	751
<b>767</b>	49	16	79
<b>737</b>	656	495	4,363

(注)   色の機種は広胴機（ワイドボディー機）を示す。

出所：ボーイング社 HP

(注)受注残は2016年3月末時点

## エアバスの受注・納入状況

(2015年1月～12月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
エアバス合計	1,190	635	6,716
<b>A380</b>	3	27	135
<b>A350</b>	16	14	758
<b>A330/A340</b>	156	103	344
<b>A320</b> ファミリー	1,015	491	5,479

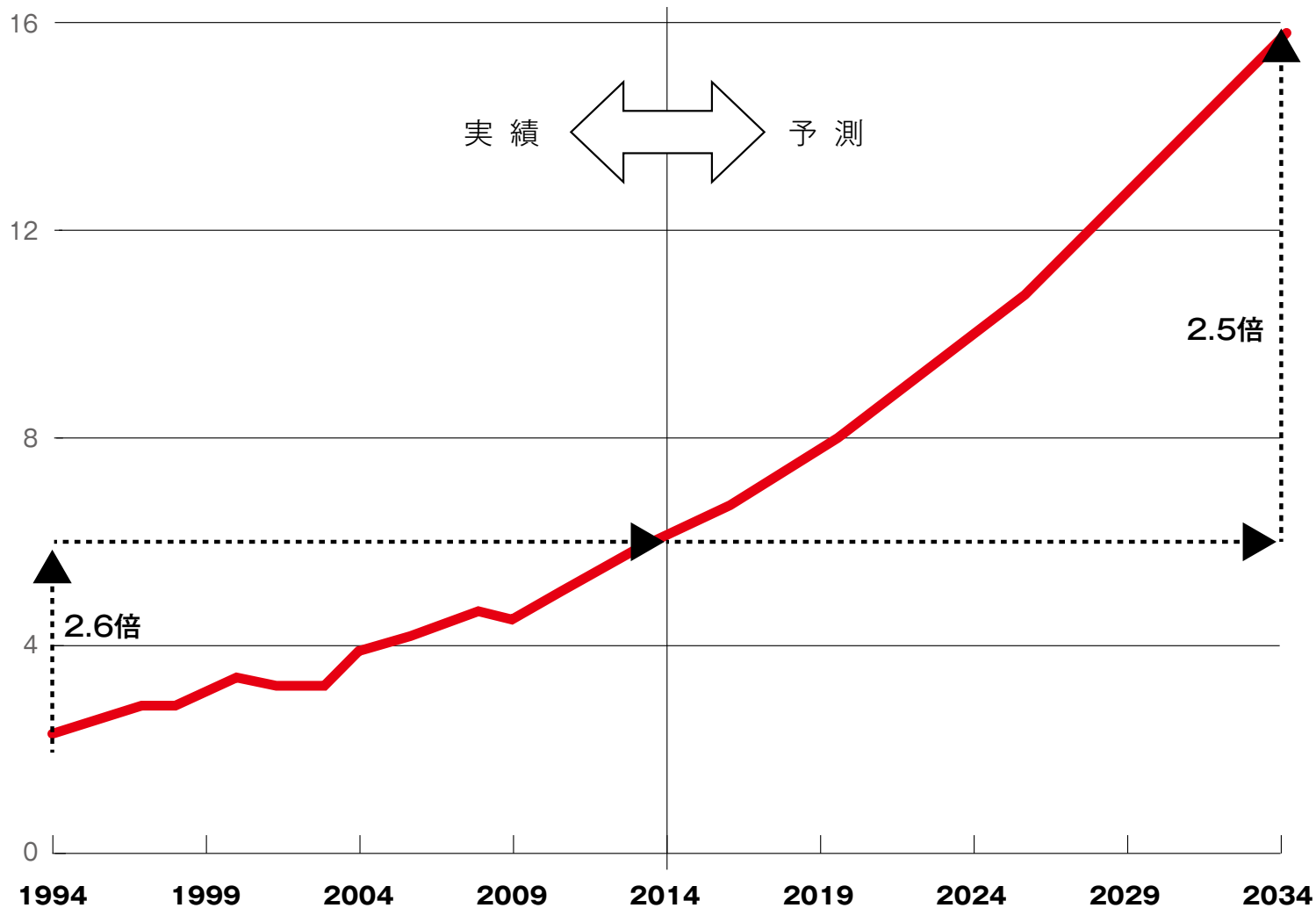
(注) ■色の機種は広胴機（ワイドボディー機）を示す。

出所：エアバス社 HP

(注)受注残は2016年3月末時点

## 世界の航空旅客予測

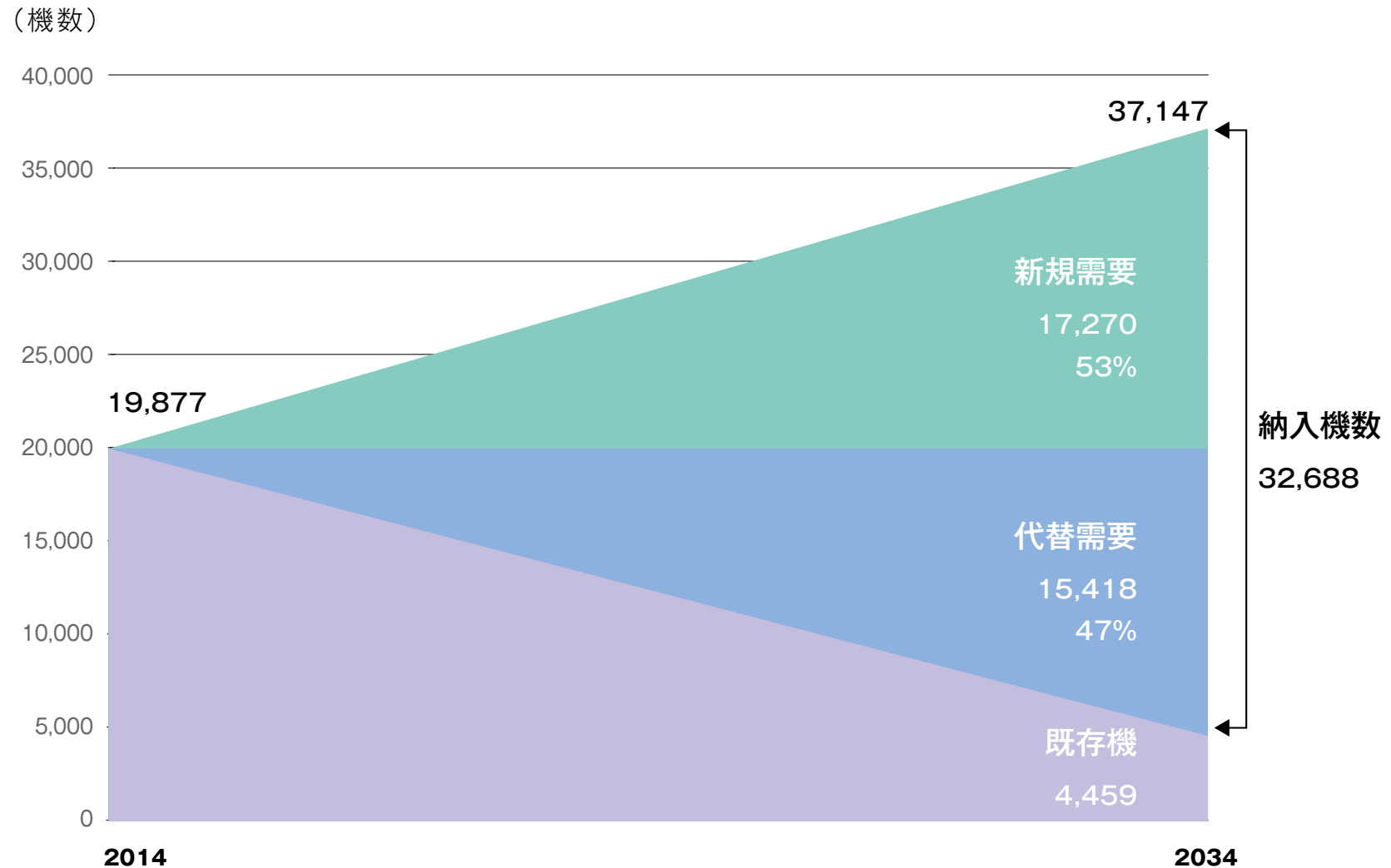
## 世界の航空旅客予測

航空旅客輸送量  
(兆人キロメートル)

出所: (財)日本航空機開発協会「平成26年度民間輸送機に関する調査研究」

## ジェット機の運航機材構成予測

## ジェット旅客機の需要予測結果



出所: (財)日本航空機開発協会「平成26年度民間輸送機に関する調査研究」

技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**  
ALWAYS FLY TOGETHER



*Always Fly Together*